

あおもりノーリフティングケア推進事業 実践報告



医療法人サンメディコ



施設紹介

施設理念：明るい笑顔で、誰でも安心して
過ごせる生活の場を提供します



介護老人保健施設
ヴィラ弘前

グループホーム
ヴィラ弘前





医療法人サンメディコ

【弘前市岩賀地区】

介護老人保健施設ヴィラ弘前
グループホームヴィラ弘前



【弘前市城東地区】

- 下田クリニック
- サービス付き高齢者住宅 グラン城東



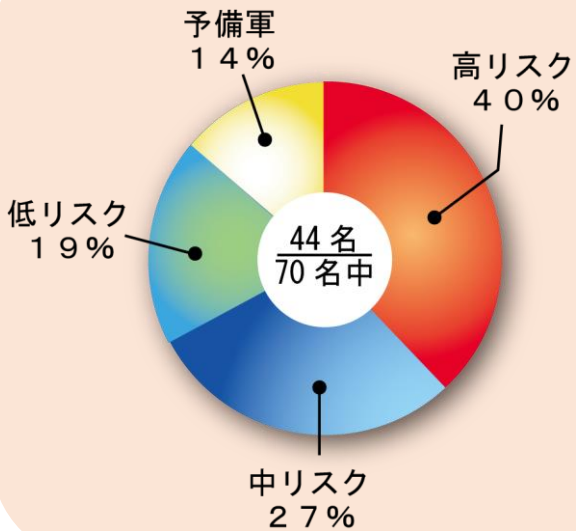


医療法人サンメディコ

- ・介護老人保健施設ヴィラ弘前
- ・グループホームヴィラ弘前

職員数 112人
(2019年4月1日現在)

【事前腰痛調査】



(常勤換算)

介護職員	67.3
人看護職員	16.
5人 介護支援専門員	
2人 管理栄養士・栄養士	
2人 OT	
5.6人 ST	
3.6人 事務職員	
5人	



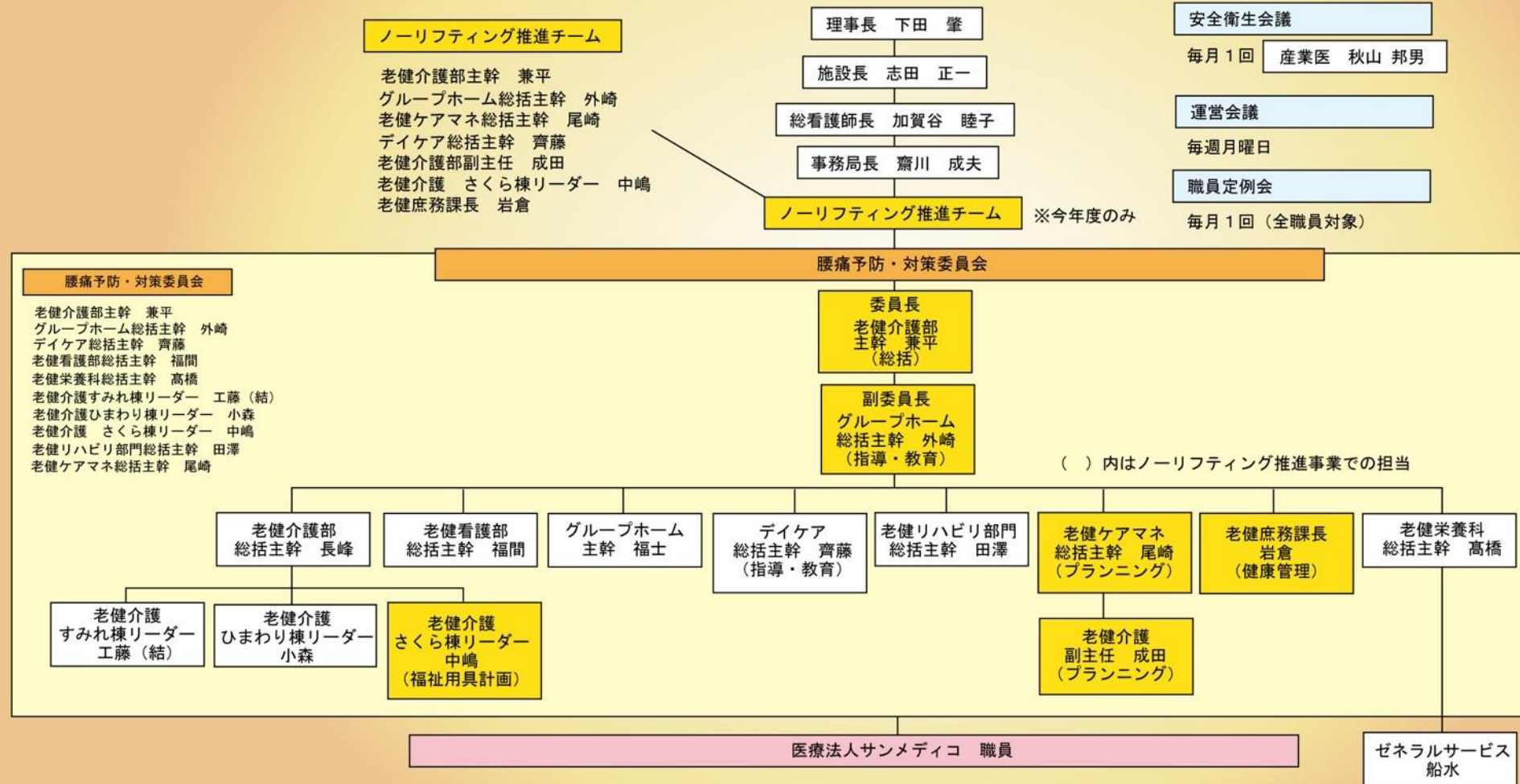
平均介護度
老健: 3.1
GH: 2.34



医療法人サンメディコ ノーリフティングケア推進チーム



医療法人サンメディコ ノーリフティングケア推進チーム



教育体制

職員(新人・
中途入職・現
職者)に対し
ての指導方
法・計画

新入
職員

入職日より始まる「新入職員教育プログラム」に
組み込み実施

中途
採用

実技STEP①～⑤新入職員教育担当者が実施
目的：ノーリフトケアの理解と実技指導

一般
職員

年2回の面談後に実技STEP④・⑤
ノーリフト実技指導者が実施・評価
目的：ノーリフトケアの振り返り

内・外
部研修

腰痛予防・対策委員会として施設内・
外研修を計画していく
(年度ごとに研修計画を策定)

● 実技指導者に対する 詳細マニュアル配布

実技9項目



● 実技DVDの作成と貸し出し



項目チェックでの自動採点

自動採点

職員名: ●●● 評価数: 標準 実習日: 実習日

ノーリフティングSTEP4.5実技トレーニングチェック
※出来ているものにチェックを入れて下さい(テキストより)

	STEP1-1準備	STEP1-2準備	STEP1-3準備	STEP1-4準備	STEP1-5準備
1	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○
6	○	○	○	○	○
7	○	○	○	○	○
8	○	○	○	○	○
9	○	○	○	○	○
チェック数	4	7	7	4	4
総計	100	77.77	77.77	55.55	100
総合評価	78.54				

※総合評価70%未満の場合は再研修と致します。又、各項目で配りが異なる場合によりも再研修となります。

合格条件として全STEPに得点がある事
トータルで70%以上の得点である事

指導者用マニュアル



● LINEでの動画配信
(緊急連絡網使用)



あおもりノーリフティング推進事業 ヴィラ弘前 進行状況

部署	役職名	職名	氏名	準備チェック	面談・指導回1	step1	step2	step3	step4	step5	step6
介護	研修生科	介護福祉士	長崎 美恵子			93	88		79	82	
	主幹		藤平 満			/	/	/	/	/	/
	主任		小山内 由紀子	高(時)		98	94		72	76	
	副主任		成田 竜樹	高(時)		/	/	/	/	/	/
	技師		鈴山 和磨	高(時)		88	100		72	80	
			小森 貴之			88	100		78	82	
			木村 裕希	高(時)		100	100		80	82	
			野呂 有美	高(時)		100	100		84	82	
	技師補	介護員	長門 香守穂			/	/	/	/	/	/
	技師	介護福祉士	工藤 結衣子			100	100		88	86	
			坂本 翔太	高(時)		93	100		78	80	
			榮 純一			100	100		76	88	

実技指導の様子



腰痛調査及びリスク把握

●腰痛リスクを拾い上げる方法（その1）職員健診時
年2回事業所の健康診断の時期に合わせる

5月

職員健康診断

健康調査
リスク把握

(調査様式1・3)

様式1. 健康調査票

様式3. リスク把握表

認証評価
面談

【聞き取り追記】

各所属長が実施

11月

夜勤者対象

職員健康診断

介護従事者全員

腰痛調査
リスク把握

(調査様式2・3)

様式2. 簡易腰痛調査票

様式3. リスク把握表

認証評価
面談

【聞き取り追記】

健診時に
記入

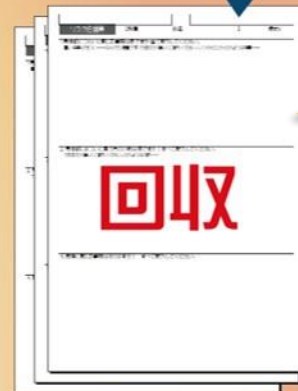
●腰痛リスクの回収から検討・分析・共有までの流れ

対応方
依頼

集計・
分析

腰痛予防
対策
委員会

月1回定例会議



リスク
把握票

対応依頼書

- ・ 職員個人 . . . 指導、対応
- ・ 職員全員 . . . 各セクション上長への報告・対応依頼
- ・ 委員会 . . . 各委員会への報告・対応依頼
- ・ 施設 . . . 運営会議・安全衛生会議への議題提案

いつ?どの様に対応・対応し
どうなったのかを結果報告

職員定例会・回覧・掲示板・申し送り

環

ノーリフ

青森家 **ノーリフティングケア**
宣言!!  持ち上げ・抱え上げ・引きずらない!
 持ち上げ・抱え上げ・引きずりといった悪いケアを繰り返していませんか? 職員の腰痛予防と利用者の二次障害防止のために、ノーリフティングケアを実践しましょう。

利用者にも職員にも負担が大きい!
移乗のサポート



困っていませんか?
入浴のサポート



医療法人サンメテイク

憩前にストレッチ

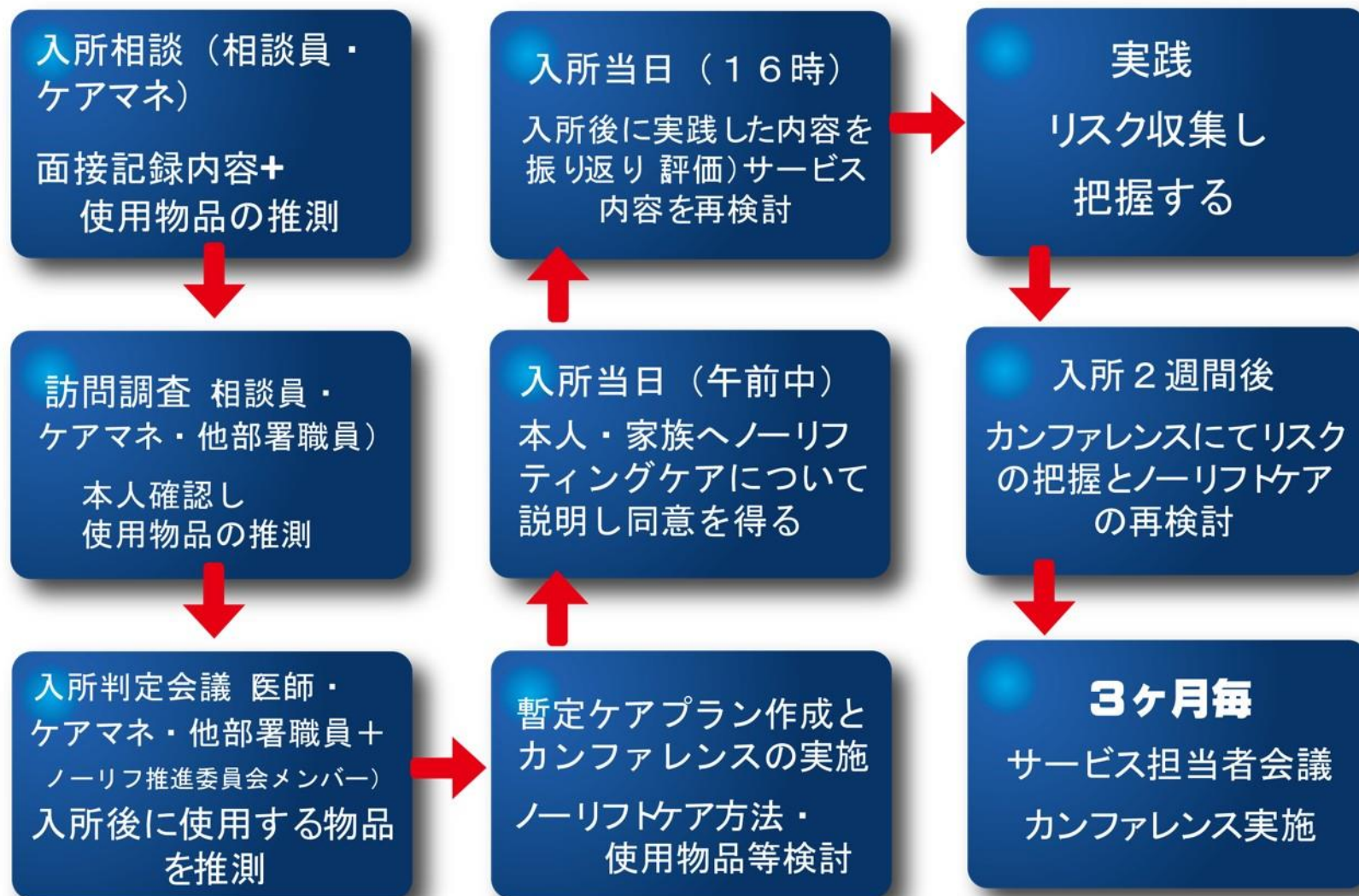
ケア以外のリスクの洗い出しと対応



- ノーリフなう「周知」
- 意識して「ストレッチ」

個別アセスメントとプランニング

アセスメント・ケアプラン作成・実施・評価・一連の流れ



対象者のアセスメント / 情報シート												
ノーリフト					記入日	R	年	月	日			
					担当者名							
名前					介護度	要介護5	身長	155	cm	体重	49	Kg
生年月日	昭和	43	年	1	月	15	日	年齢	51	歳	性別	女
					測定日	R	1	年	7	月	1	日

病名	多発性脳梗塞、血管性認知症、遺伝性脳小血管病、CADASIL、嚔下障害															
福祉用具使用状況	福祉用具名	機能型車椅子			点検	点検日	R	1	年	6	月	30	日	良	使用済否	

	本人の身体機能	現状のケア	実行していくケア(ノーリフトの観点から)
認知理解度	不可		
コミュニケーション	声かけに対し笑顔見られたり声を出す事あり	ケア特職員により声かけ行う	
寝返り	不可	定時体位交換にて対応	
ベッドでの上下/横移動	不可	下方向に下がっている場合は職員1名で元の位置まで戻している	スライディングシートや介助用グローブを使用し対応していく
起き上がり	不可		
立ち上がり	不可		
移乗	不可	職員1名で移乗介助行っている	スライディングシートを使用し対応していく
移動	不可	主にベッド上で過ごされているがリネン交換時ティルト式車椅子使用し介助にて移動している	

課題	職員1名でトランスファーを行なっているが体の脱力や移乗後傾きも見られ危険が伴う。また氏の体重が重い為職員腰部等に負担がかかっている。ベッド上で上下左右移動する際も職員の身体に負担がかかっている状態である。
目標	氏の身体の安全の確保。移乗時やベッド上での移動の際職員の負担にならない手段の構築。
工夫	ティルト式車椅子をフラットにし電動ベッドを上下する事で高さの調整、スライディングボードを活用し移乗できるかを検討。入浴時は電動ベッドを浴室までもっていき上下する事で高さの調整を行い、スライディングシートを使用しストレッチャーへの移乗を行う。ベッド上での移動はスライディングシートや介助用グローブを活用し対応する。

現在の状態				
1. 食事・水分	2. 排泄	3. 入浴・清拭	4. 整容・口腔	5. 活動
・ソフデ食・アイソカル2K 1000kcal提供(11/10~)(例150食150食200食)→このまま様子みる ・水分:300cc×3 ・体重増加傾向、変動観察対応	・24時間紙オムツ+P使用 ・定時オムツ・体位交換施行(仰臥位禁止) ・オムニマット使用	・洗身・洗髪:全介助 ・中絶浴(リクライニング式シャワーキャリー) ・入浴日:火・金/W ・座位保持困難、転落注意 ※要清潔面へのケアを	・口腔ケア:全介助 朝昼夕・随時施行 ・自覚あり ・こまめな嚥と口腔ケア実施	・音楽を聴いて頂く ・リネン交換時や入浴時調子がよければしばらく車椅子にて離床して頂く ※離床しても叫び声がない時はすぐ臥床

担当	<ul style="list-style-type: none"> ・臥床時本人の好きな歌手の歌やラジオを聴いていただき、気分転換を図っている ・声かけ多く回り、まだ叫んでいる症状(期間が短くなっている?)についてのデータをとり、内服等検討→リスレドリン(2m・1m・1m)→毎日介助実施後や毎日夕方呼び声聞かれている... ・家族希望にて本人の状態見ながら離床を図る。しかし叫び声顕著であり離床できないことが多い。 ・こまめな嚥と口腔のケアの実施をしてほしい。・皮膚状態の観察と体交を継続していく。 ・お母さんは娘さんが男性に介護されるのは少し抵抗がある→オムツ交換時は女性職員が対応してほしい。 ・お母さんが娘さんが暑そう、汗ばんでいる事を気にかけて熱湯まシートを貼っていくのでバジャマは薄手のもので対応。 ・臀部処置繰り返し消毒観察継続。
----	--

作成日 R 年 月 日

担当ケアマネ 尾崎賢吾

ノーリフティングケア ケアプラン

ケアプラン期間 R 1 年 6 月 1 日 ~ R 1 年 8 月 31 日

名前	
課題	職員1名でトランスファーを行なっているが体の脱力や移乗後傾きも見られ危険が伴う。また氏の体重が重い為職員腰部等に負担がかかっている。ベッド上で上下左右移動する際も職員の身体に負担がかかっている状態である。
目標	氏の身体の安全の確保。移乗時やベッド上での移動の際職員の負担にならない手段の構築。
対応内容	ティルト式車椅子をフラットにし電動ベッドを上下する事で高さの調整、スライディングボードを活用し移乗できるかを検討。入浴時は電動ベッドを浴室までもっていき上下する事で高さの調整を行い、スライディングシートを使用しストレッチャーへの移乗を行う。ベッド上での移動はスライディングシートや介助用グローブを活用し対応する。
評価	入浴時スライディングシートを使用しストレッチャーと電動ベッド間を移乗する際、電動ベッドの上下位置の数値を予め決めておく事でどの職員が行っても安定して氏を移乗する事ができるようになった。職員1人でもスムーズに移乗する事ができるようになった。これまで職員2人がかりで抱え上げていた時に比べ職員の身体的負担の軽減を図る事ができるようになった。また氏の身体にかかる負担、特に亜脱臼を繰り返しやすい右肩部分にかかる負担の軽減にもつながり、抱え上げる事による転落の危険性がなくなった部分も大きいと思われる。現在電動ベッドと車椅子間の移乗や臥床時ベッド上での上下左右の移動に関しては、その手順や福祉用具の使用方法が対応する職員全体にまだ周知や浸透していない為まだ実施には至っておらず、これからその対応を含め検討進行中である。

作成日 R 1 年 8 月 31 日 担当職員

ノーリフティングケア導入前

- ・ノーリフティングケアの知識不足
- ・福祉用具の使用方法に難あり
- ・介助方法に難あり
- ・**専門職としての意識・態度に難あり**

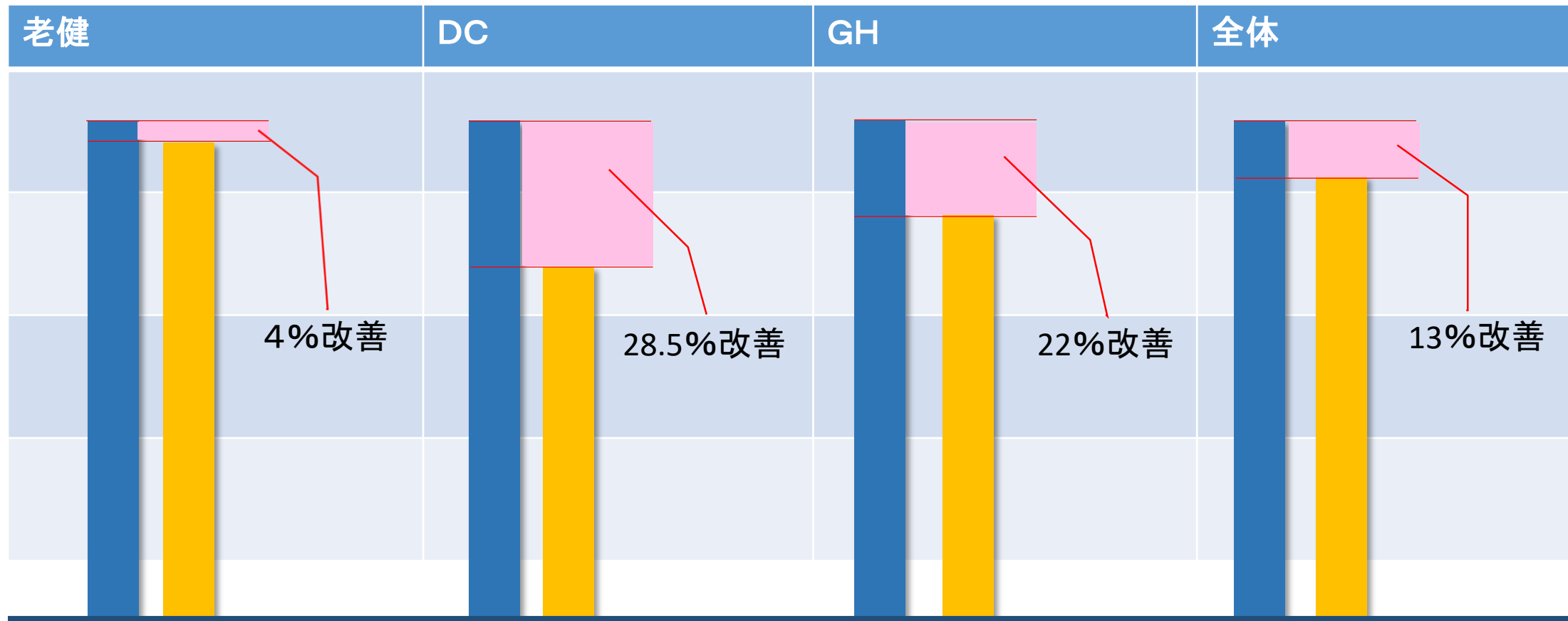


ノーリフティングケア導入後

- ・ノーリフティングケアを正しく理解し始めている
- ・現在所有している福祉用具を、正しく活用している
- ・介助者・利用者相互の負担を考慮した介助を心掛けている
- ・**専門職として、自己管理の必要性と、働く環境の整備・安全な職場づくりを心掛けている**

各事業所腰痛改善率

■ 事業参加前 ■ 事業参加後

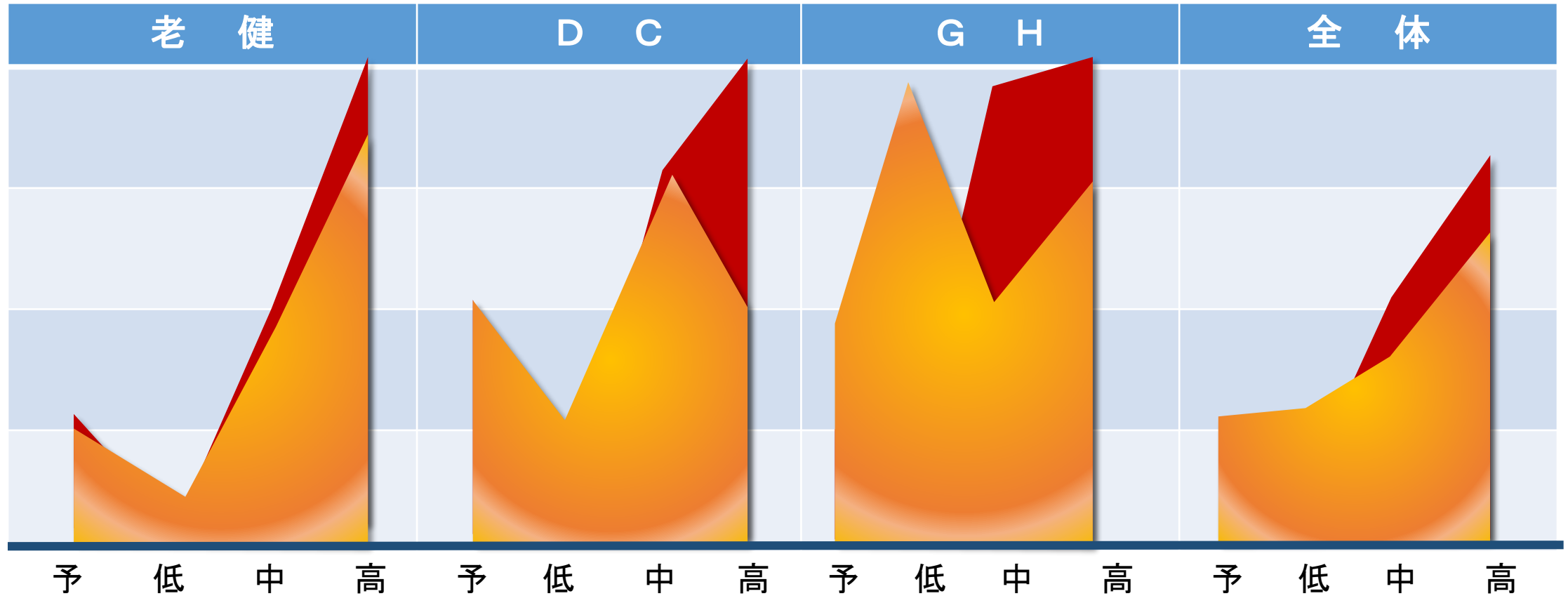


リスク別の変化

■ 事業参加前 ■ 事業参加後

腰痛調査については事業参加前と同じアンケートを使用

- ・高リスク・・・常時・時々
- ・中リスク・・・たまに
- ・低リスク・・・以前は
- ・予備軍・・・痛くない



今後の課題と取り組み

- ノーリフティングケアの視点・考え方の定着
- シートやグローブ等福祉用具活用でのケア定着
- 職員の姿勢や作業環境の定期的評価体制の確立
- 福祉機器・用具の充実と管理体制の確立
- ノーリフティングケアリーダーの充実



目標

法人全体でのノーリフティングケアの定着と、
介助者・利用者が共に安心して過ごせる生活の場(施設)を提供できる

令和2年度の活動について

- 令和2年度ヴィラ弘前ノーリフティングケア推進事業
- 新入職員への指導・教育
- 現任職員への指導・教育
- ケアプラン(全入所)
- 外部への指導
- 福祉用具導入及び指導
- 腰痛調査・面談





ご清聴ありがとうございました